

令和2年12月8日

在宅で生活をされている知的障害のある人が日常生活で
困っていることに関するアンケート調査の結果概要

- 1 アンケート調査の実施主体
一般社団法人群馬県手をつなぐ育成会
- 2 アンケート調査の目的
在宅で生活している知的障害のある人が、日常生活で困っていることを把握し、今後の当会の活動や行政への政策提言等につなげていくために実施した。
- 3 アンケート調査期間
令和2年9月16日(水)～10月30日(金)
- 4 アンケート調査実施方法
当会の県内25の各支部を通じて、会員に依頼した。
- 5 アンケート調査の記入者
本人が記入できない場合、可能な限り本人の意思を確認の上、家族が記入。
- 6 回答者の状況
 - (1) 回答者数67名
 - (2) 年代別
10代4人、20代20人、30代26人、40代19人、50代4人、
60代以上2人
 - (3) 性別
男性38名、女性29名
 - (4) 療育手帳別
・持っていない1人
・持っている66名
A1:20名、A2:13名、A3:1名、B1:15名、B2:14人、
未記入:2人、その他:2人
 - (5) 記入者
本人:7名、家族:57名、本人と家族:3名
- 7 アンケート調査集計結果
 - (1) 困っていることがある
 - ①健康・医療 38人(56.7%)
 - ②外出 35人(52.2%)
 - ③家族 24人(35.8%)
 - ④収入 22人(32.8%)
 - ⑤福祉サービス 22人(32.8%)
 - ⑥住宅 20人(29.9%)
 - ⑦友達 20人(29.9%)
 - ⑧相談 18人(26.9%)

- ⑨仕事 16人(23.9%)
- ⑩支援者 15人(22.4%)
- (2) 心配なことがある
 - ①これからの生活 53人(79.1%)
 - ②災害時 46人(68.7%)
- (3) 差別や嫌な思いをしたことがある
29人(43.3%)
- (4) 周りの人にして欲しいことがある
37人(55.2%)

8 主な回答(記載)内容

(1) 困っていることがある

①健康・医療

- ・親が付き添えなくなった時に支援するサービスが整っていない。
- ・親が事故や病気になったとき、預ける場所が無い。
- ・話すことが出来ず、体調不良の内容を説明することができない。
- ・医者への通院や血液検査、健康診断を嫌がるので、重症になるまで気づかない。
- ・かかりつけの医者が辞めた場合、精神面までのフォローをしてもらえなくなる。
- ・障害者に理解のある医院を見つけるのが大変。
- ・てんかん発作があり、飲み薬が増え、副作用が心配。
- ・医療費の3割負担は大変なので、1割負担にして欲しい。
- ・インフルエンザの予防接種が全額自己負担なので無料にして欲しい。
- ・運動する機会があまり無く、太りすぎで困っている。

②外出

- ・自動ドアやエレベーターが大好きで、そこから離れなくなるので外出できない。
- ・一人で歩けない、外出できない。運動不足で太る。
- ・ずっと家で過ごしているので、ストレスがたまる。
- ・外出に関する支援サービスが無い。
- ・移動支援は事業者やヘルパーが少なく、行動範囲も制限され使い勝手が悪い。
- ・支援者との相性が合わず、難しい。
- ・まだバリアフリーになっていないところが多い。
- ・買い物で商品に触る癖があり困る。
- ・他の人に迷惑をかけるので、団体行動は出来ない。
- ・車が危険なことがわからず、車の前に飛び出してしまう。
- ・電車やバスに一人で乗れない。
- ・バスの本数が少ない。
- ・ここで待っていてと言っても動いてしまう。
- ・車から降りないので困る。
- ・人混みが苦手でお店に入れない。

③家族

- ・両親が高齢化し、親なき後のことが心配。

- ・両親が高齢化し、送迎ができなくなったときに心配。
- ・持病のある親が入院したときに困る。
- ・父親とは、仲良くない。
- ・時間帯を構わず、大声を出す。
- ・奇声を発したり、大声を出したりすると家族のストレスが大きい。

④収入

- ・親なき後、自分の年金では足りない。
- ・コロナで作業が減り、報酬が少ない。
- ・障害者枠で就労すると賃金が少ない。

⑤福祉サービス

- ・親なき後に入所できる施設やグループホームが近くに無い。
- ・利用できるサービスが少なく、整っていない。
- ・使いたいときにショートステイが使えない。
- ・買い物や映画鑑賞に行きたいが移動支援が日曜日に使えない。
- ・余暇活動の出来る安心安全な居場所や宿泊施設が無い。
- ・福祉センターのプールの利用が難しい。
- ・知的障害の専門的知識のある人に相談に乗って欲しい。
- ・緊急時に利用しようとするスタッフがいないと断られる。
- ・サービスの担当者が事務的で、親切に対応してくれない。
- ・人が大勢いる入所施設での短期入所は本人が嫌がる。
- ・本人がサービスの利用を拒否している。

⑥住宅

- ・近くにグループホームが無く、重度の人の受入が無い。
- ・自宅はバリアフリーで無く、転んでしまう。
- ・親なき後、家を出て共同生活しなければならないが見通しが立たない。
- ・こだわりが強く、協調性が無いので、共同生活ができない。
- ・家族が高齢化し、家で入浴させるのが重くて大変。
- ・大声を出したり、暴れたときに近所に聞こえるのでは無いかと心配。

⑦友達

- ・コロナ禍で友達に会うことが出来ず寂しい。
- ・人の言動が気になり、パニックになる。
- ・友達がい無い。会話や交流が無い。一緒に遊べる人がいない。
- ・気になる子を触りに行き、傷を負ったり傷つけてしまったことがある。
- ・意地悪されても泣き叫ぶのみで助けてくれる人がいない。
- ・意思疎通が上手に出来ず、トラブルになってしまう。
- ・団体生活をしていて、周りの人との人間関係が難しい。

⑧相談

- ・言葉が通じず、意思の伝達ができない。
- ・説明が上手に出来ず、理解してもらえない。
- ・他の場所での通所を体験させたいが、変化を嫌うので大変。

- ・相談者が障害者に寄り添い、対等の立場で相談に乗って欲しい。
- ・初めての人だと相談が困難。
- ・誰に相談すればよいのかわからない。
- ・利用できるサービス自体が少ない。
- ・他の利用者との人間関係が難しい。

⑨仕事

- ・親なき後、一人で生活していくのが難しい。
- ・ほとんど仕事ができない。仕事の行く先が無い。
- ・バスがないため、仕事が見つからない。
- ・コロナで自分に合った仕事が無くなり、変化に弱いため戸惑い気味。
- ・職員の質の問題で困っている。
- ・本人は仕事をしたい気持ちはあるので、少しでもできるように指導して欲しい。
- ・健常者と比べると指先に麻痺があり仕事がうまく出来ず、困っている。
- ・作業所の屋内の仕事では無く、外に出て働きたい。
- ・仕事で常に緊張してしまい、休日が終わると不安定になる。
- ・利用客に尋ねられたり、話しかけられると怖いと思ってしまう。

⑩支援者

- ・使える支援サービスが無い。
- ・グループホームの体験や見学に行きたくなくて拒否している。
- ・声の大きい人が苦手で、おとなしい支援者を選び居場所としている。
- ・希望を言っても通らない時がある。
- ・自分を理解してもらえないとイライラしてしまう。
- ・自分の思っていることを他の人に伝えられない。
- ・障害を病気と思ったり、パニックを怖いと思う人がおり、勉強して欲しい。
- ・他と協調できない障害のある人の性格や状況を理解して欲しい。
- ・家族の病気や外出などの緊急時に看てもらえる人がいない。
- ・サービスステーションが利用できなくなることは大変困る。

(2) 心配なことがある

①これからの生活

- ・親が病気や怪我で動けなくなった時、誰が本人を介護するかが心配。
- ・親なき後、一人で生活できないので、24時間、365日全てが心配。
- ・親が動けなくなったら、送迎できず、作業所への通所や就労も出来なくなる。
- ・たくさんのこだわりがある。
- ・グループホームを希望しているが、なかなか利用できない。
- ・親の高齢化による認知症や、車の運転が出来なくなった時のことが心配。
- ・登録している入所施設に本人を託せるかが心配。
- ・施設に預けたとき、環境の変化についていけず、体調を崩してしまうのが心配。
- ・親なき後、兄弟が面倒をみてくれるのかが心配。
- ・行きたくないのに親がグループホームへ行かせようとする。
- ・重度障害者向けのグループホームが近くに無い。

- ・親なき後、一般就労が無理なので、収入面が心配。
- ・女性なので、施設に入所し、性的暴力を受けるのでは無いかと心配。
- ・障害年金が少なく、一人では生活できない。
- ・親なき後、生活環境の変化により、精神状態や信頼関係を築けるかが心配。
- ・親元を離れて料理、洗濯、掃除ができるようになるかが心配。
- ・買い物のこと、お金のこと、病気になったときのことが心配。

②災害時

- ・避難所で静かに長期間、生活することは困難。
- ・周囲に理解者、支援者がいないと一人では避難所へ移動できない。
- ・大声を出したり迷惑をかけるので、一般の避難所では無理。
- ・落ち着いて避難できる場所が無い。
- ・家に留まるか、親戚に預けるか、車などにいるしかない。
- ・自分で判断できないので、災害時の全てが不安。
- ・日頃から訓練して慣らして欲しい。
- ・素早く行動することが出来ない。
- ・環境の変化についていけず、体調を崩してしまう。
- ・親と離れ離れになったらどうなるのか不安。
- ・災害の怖さがわからないので、言葉をかけてもらわないと避難できない。
- ・つながりが持てるか、共に生活できるか、説明が理解できるか不安。
- ・体験したことがない場合、パニックになりやすい。
- ・言葉が話せず、歩けないので、親と離れたときのことが心配。
- ・驚くと動かなくなり、怖がって避難しないことが心配。
- ・緊張するとけいれん発作を起こし、医療は一刻一秒を争うので不安。
- ・避難所がわからない。
- ・音に敏感なので、人がたくさん集まる場所は苦手な避難所では眠れなくなる。

(3) 差別や嫌な思いをしたことがある

- ・家の家系に障害者はいないと言われた。
- ・通学時に石を投げられた。
- ・ゴリラとか悪口を言われ、いじめのターゲットにされる。
- ・言葉の暴力を受けた。
- ・変な目でじろじろ怪訝な顔で見られたり、指をさされる。
- ・周りから不審な目で見られたり、煩わしいと思われたりする。
- ・嫌な顔をされ、不審者と思われる。
- ・トラブルの時、犯罪者扱いされ、怖がられたり、変人扱いされる。
- ・公園で遊んでいると他の子供が逃げたり、馬鹿にして口まねをしたりする。
- ・ひそひそ陰で見られたり、「可愛そうね」と言われる。
- ・話せないので、理解されず、ストーカー扱いされる。
- ・こだわりについて理解してもらえない。
- ・仕事で健常者と比較され、嫌がらせを受ける。
- ・一般児童が障害者のことを理解できるよう教育して欲しい。

(4) 周りの人にして欲しいことがある

- ・声かけをし、普通の人と同じように接して欲しい。
- ・コミュニケーションをとって欲しい。
- ・話をして欲しい。一人にしないで欲しい。
- ・挨拶をしたら笑顔で返して欲しい。
- ・大きな声ではなく、静かにゆっくり話しかけて欲しい。
- ・偏見の眼差しは、本人も感じ取る。
- ・地域の人々との話し合いも大事。
- ・困っている様子であれば声をかけて欲しい。
- ・行動が遅くても迷惑そうな顔をせず、やさしく見守って欲しい。
- ・やさしく対応してくれる人が一人でも増えてくれれば嬉しい。
- ・暖かい目で見えてほしい。
- ・おもいやり駐車場には健常者は車を止めないで欲しい。
- ・自閉症や知的障害のある人のことをもっと知り、理解して欲しい。
- ・本人を理解し、特性やこだわりを分かってくれたい。
- ・助け合いの気持ちを持って欲しい。
- ・分かり易い言葉で話して欲しい。
- ・もっと他の人と触れあう機会があればいいなあ。
- ・洗濯機の操作や料理、片付けの方法がわからないので、一緒に教えて欲しい。
- ・親なき後、自分で暮らせる方法を知りたい。
- ・保護者がもう少しまとまって、気軽に交流できる雰囲気を作って欲しい。
- ・地域の人達と触れあう機会が持てたらお互いに理解しあえる。
- ・障害者側ももっと積極的にアクションを起こしていくことが大切。
- ・ヘルプマークの周知が大切。
- ・将来一人で暮らすとき、日常生活で出来ないことがあったら支えて欲しい。
- ・大変なときに「お手伝いできることはありますか」と声を掛けて欲しい。